

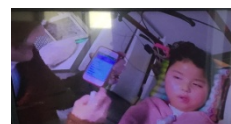
## 京ちゃん「がっこうへ行こう」



2012年5月28日、地元CBCテレビで放映された「がっこうへ行こう」のビデオを見せてもらった。林京香さん、京ちゃんが地域の学校、堀田小学校に入学するまでを描いた50分余りのドキュメンタリーである。これまで京ちゃんのお母さん有香さんが書いた数多くの感動レポートを読み、お父さん智宏さんの講演や話から聞いてはいたが、この映像から初めて知ったこと、考えさせられたことも多い。

脊髄性筋萎縮症を患い、1歳半に人工呼吸器をつけた京ちゃん。ご両親の奮闘努力、京ちゃんを支える多くの人たちの力により、成長していく京ちゃんの姿をカメラは追う。ちーちゃんが生まれ、家族のチームワークは、より強固なものになっていった。元気なちーちゃんの「存在感」がいかに大きかったかが伝わってくる。そして地域の学校に入学するまでの奮闘記が、名古屋市の教育委員会などとの「やりとり」を通じて描かれる。なぜ「特殊学級」ではなく、地域の学校なのか。当時、名古屋では京ちゃんのような重い障害を抱えた子どもが地域の学校に通う例はまだなかった。初めてのことであり、マスコミから注目されたが、それだけに「風当たり」も強かった。

京ちゃんの「がっこうへ行こう」という強い意志、ご両親の前向きな姿勢により、いくつかの壁も乗り越えていった。2枚目の写真は、名古屋市から「入学の知らせ」があったときの感動シーンだ。京ちゃんは春に体調をこわすことが多いという。入学が近づいた頃、京ちゃんは入院生活を送る。姉を心配するちーちゃんの心が通じて、なんとか退院して入学式の日を迎える。3枚目の写真は同じ地域の「分団」の子らと通学する京ちゃん。ここで映像は終わる。



映像はまさに「エイゾー」であり、京ちゃんのご家族の奮闘努力の日々をビジュアルに伝えてくれる。映像をじっと見ながら、目頭があつくなることも多かった。その一方で、「どうしてなんだ！」と怒りすら感じることもあった。

なんと言っても、インターネットによる京ちゃん家族に対する誹謗、中傷のたぐいだ。聞くに耐えられない言葉が、映像にも紹介されていた。私が京ちゃんのことを最初に知ったのは、2013年夏の中日新聞のある記事からであった。京ちゃんの学校生活が紹介されていたなかで、インターネット「2チャンネル」などによる誹謗・中傷に苦しみ、悩むご両親、でも学校で級友たちがドッジボールで京ちゃんを助けることも。その新聞をコピーして、ゼミ生らと議論したことを思い出す。

映像を見て、あらたて考えさせられたのは、「養護施設」や「特殊学級」、地域の学校で共に学ぶことの意義と課題などだ。インクルーシブ教育に関わる問題であり、これについては、別にレポートに書いていきたい。

(2017年3月14日)